慶應義塾大学看護医療学図書室における RefWorks の活用

三谷三恵子*

慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター 看護医療学図書室

I. はじめに

近年看護医療学分野は、社会的ニーズが高まり看護系大学や大学院の新設が急増している。また、看護医療現場においても看護研究が盛んである。看護医療学分野の学術文献数が年々増加しているのはこのような背景が要因だと考えられる。データベースの機能も進化し、自然語から統制語（シソーラス用語）に導く自動マッピング機能、検索結果から引用文献リンクや蔵書検索システム OPAC への自動検索リンク、電子ブック、電子ジャーナルなどによって瞬時に文献が入手できる。また、アラート機能を利用すればデータベースに収録された時にメールでお知らせが届く。

慶應義塾大学メディアセンターでは2005年4月に米国 RefWorks 社が提供する RefWorks を導入した。RefWorks は、書誌データベースから文献データを取り込み保管・編集ができる文献情報管理・論文作成支援ソフトで以下のような特長がある。

- ・インターネットの環境があれば利用できる。
- ・グループコードにより、指定の IP アドレス外（キャンパス外など）から利用できる。
- ・利用者個々の端末にソフトをダウンロードする必要がない。
- ・操作ボタンやメッセージが日本語で利用しやすい。

看護医療学図書室では、RefWorks 導入以前から利用者より文献情報の整理方法について相談を受けていた。導入前までは、Microsoft の Excel や Word を利用して文献管理を行っている学生が多くみられ、転記ミスのためか文献取寄せの際に書誌事項が間違っていることがあった。このようなこともあり、日本語文献が取り扱える文献管理ソフトの導入を検討していたため RefWorks の導入は画期的であった。

RefWorks は、使い方を理解すれば、短時間で検索結果を保存でき、参考文献リストを作成することができる。しかし、思ったほど利用者数は伸びなかった。学生からの質問に対応する中で、文献管理ソフトは直感的に利用できるソフトではなく、基本的な使い方を理解し慣れることが必要と感じ、積極的に説明会をおこなっている。本稿では、これまでの取り組みとその成果について紹介する。

II. 看護医療学図書室における利用説明会

看護医療学図書室で実施した RefWorks 利用説明会実施状況は、表1の通りである。看護医療学部図書室がサービス対象としている看護医療学部の学部生、健康マネジメント研究科の大学院生は授業、実習等で空き時間が少ないため、利用説明会を開催しても参加が困難な状況にある。そのため、参加できなかった学生には個別に対応している。個別対応は、一時的なスタッフの負担はあるものの、ソフトの詳細まで説明でき実際の実例を用いて説明することができるので効果的である。

利用説明会は、共有コンピュータが設置してある教室において実習形式で行っている。

2005年には、5月・10月・12月の3回説明会を行った。5月と10月は、データベース説明会として各種データベースの使い方について実施し、その中に文献管理ソフト RefWorks の説明会も組み込んだ。1回90分間で、RefWorks の概要、各種データベースから検索結果を取

表1. 2005年－2007年の説明会実施状況

開催日程	対象者	参加人数
2005年5月10日	看護医療学部、健康マネジメント研究科	21名
10月28日	看護医療学部	5名
12月2日	看護医療学部1年 データサイエンス授業	101名
2006年5月29日	看護医療学部、健康マネジメント研究科	19名
9月22日	健康マネジメント研究科 秋学期ガイダンス	40名
10月20日	看護医療学部1年 データサイエンス授業	101名
2007年5月18日	看護医療学部、健康マネジメント研究科	17名
5月23日	看護医療学部、健康マネジメント研究科	3名

*Mieko MITANI : 〒252-8530 神奈川県藤沢市遠藤4411.
Tel.0466-49-6204 Fax.0466-49-3298
mieko@adst.keio.ac.jp (2007年6月6日 受理)

り込む方法を中心に構成した。

12月は看護医療学部1年生の必修科目である「データサイエンスⅠ」の1コマを使った。この授業では、看護医療学部が開設された2001年から“看護医療関係情報の検索と活用”および“文献検索と統計”の2コマをメディアセンターのスタッフが担当している。文献情報管理について説明した後、文献管理ソフトの一例としてRefworksの説明を行った。

2006年には、健康マネジメント研究科の秋学期のガイダンスで必修プログラムとして各専修ごとに行った。データベースからの検索結果の取り込み方法と後述の「Write-N-Cite」を利用した参考文献リスト作成について説明した。教室に設置されている共有パソコンに「Write-N-Cite」をインストールすることができないため、個人の所有パソコンを持参してもらった。健康マネジメント研究科の1年生からは、今後の研究活動で活用できそうだという感想があったが、2年生からはもっと早く実施してほしかったという意見があった。

2006年の反省から、2007年には、看護医療学部4年生を対象に、春のガイダンスで選択プログラムとして説明会を実施した。また、健康マネジメント研究科の1年生に対しては必修とした。参加者からは、文献検索から文献管理までの概略が理解できたという感想があり、今後も行っていきたい。

5月には各60分間で初級編・上級編に分け、初級編では各種データベースからの検索結果の取り込み方法とRefWorksの機能の説明、上級編は参考文献リストの作成方法とRSSフィードについて説明した。初級・上級編とコースを分けたことにより、参加者の理解をより深めることができた。

Ⅲ. 利用統計

2005年4月から2年間の慶應義塾大学における利用統計は図1の通りである。各センターでガイダンス等が開催される4月は利用が多くなっている。看護医療学部は、実習形式のため、参加者全員がアカウント登録をする。そのため、説明会を開催した月他月よりも利用は多くなっている。しかし、全体の学生数からみると利用者はまだ一部にすぎない。文献管理の利点を多くの利用者に理解してもらい、RefWorksに限らず文献管理ソフトを利用した文献管理を広めて行きたいと思っている。

Ⅳ. RefWorks について

レコード作成、管理、参考文献リスト作成について簡単に説明する。

1. レコード作成

レコードの作成方法は、3種類ある。各データベー

図1. 月別利用数の推移

図2. JDream II・医中誌WEBからの取り込み形式

スの検索結果をテキストファイルで保存し、RefWorksに取り込んでレコードを作成する。医中誌WEBやJDream IIからはこの方法で取り込める。検索結果をテキストファイルで保存するとき、医中誌WEBは出力形式をタグ付き形式、JDream IIは印刷用形式（検索式付き）となり、データベースごとに出力形式が異なるため注意が必要である（図2）。また、電子ジャーナルリンクは保存されないため、手入力でURLを入力しなければならない。また、ダイレクトインポートに対応しているデータベースであれば、RefWorksにダイレクトに取り込むことができる。電子ジャーナルリンクは保存される場合と、保存されない場合があり、違いが明確でないため解かり難い。

その他の方法として、RefWorks経由でデータベースを検索してデータを取り込む方法や、手入力でレコードを作成する手段がある。

RefWorksの各項目にはバイト数の制限があるため、制限値を超えた場合、文字化けや該当レコード以降のレコードが取り込まれないため注意が必要である。

2. レコード管理

直近に作成されたレコードはまず「最近インポートされたレコード」に表示され、フォルダを作成して管理することができる。フォルダ作成数の制限はない。フォルダ名が半角英数字の場合は、アルファベット順に自動的に並ぶが、フォルダ名が日本語の場合は、アルファベット順に並ばないため、たくさんのフォルダを管理する場合日本語名は避けたほうがよい（図3）。

作成したフォルダにレコードを移動する場合は、該当レコードにチェックして移動先のフォルダを指定する。1レコードを複数のフォルダで管理することもできる。そ

の場合は同じレコードIDが複数のフォルダに存在する。

レコードを取り込む時には重複チェックがかからないため、取り込み後に重複管理を行う必要がある。

3. 参考文献リストの作成

文献リストを作成するには、レコード一覧から参考文献の生成画面で行う。作成されたリストは、英語論文の場合は著者のアルファベット順に表示されるが、日本語論文の場合は順不同に表示されるため、修正が必要である（図4）。

執筆原稿から作成する場合は、引用箇所にRefID（RefWorksのレコードID）を入力し作成する方法と、RefWorksに用意されている「Write-N-Cite」ソフトを使う方法がある。執筆原稿ファイルを保存し「参考文献の生成」を実施すると文献リストが表示される。この時のファイル名は半角英数字に限られ、「参考文献の生成」は、手順どおりに行わないと問題が起こる場合がある。

参考文献作成時に出力フォーマットが用意されていない時は、すでにあるフォーマットを利用して編集、または新規に作成することができる。SIST以外和雑誌の

図3. フォルダの管理画面

レコード ▾ 検索 ▾ 通覧 ▾ フォルダ ▾ 参考文献 ツール ▾ ヘルプ ▾ RefWorksを検索 [Go]

参考文献の生成 出力フォーマット一覧 | フォーマットの要諦 | 出力フォーマットを編集する

出力フォーマット: SIST02 [編集する] [新規作成] [プレビュー]

☐ 原稿ファイルから生成 ※中に引用を挿入するには

フォーマット化するファイル: [参照...]

☒ レコード一覧から生成

ファイル形式: HTML

対象のレコード: ☐ すべてのレコード (28) ☐ マイリスト (0) ☒ フォルダ内のレコード [プロスポーツ]

[参考文献の生成]

1. 入沢 将二. プロスポーツは儲かるか--プロ野球、サッカー、バスケット等のビジネス度を検証する (特集 プロスポーツは儲かるか--プロ野球、サッカー、バスケット等のビジネス度を検証する). 経済界. 2007, vol. 42, no. 8, p. 30-33.
2. 後藤 元伸. スポーツ団体のシステムとEC法: プロスポーツ選手移籍に関する「ボスマン判決」のドイツ法学による解析. 関西大学法学論集. 20060101, vol. 55, no. 4, p. 1410.
3. 星川太輔. スポーツデータ I プロ野球におけるITデータの活用. オペレーションズ・リサーチ. 2006, vol. 51, no. 1, p. 37-39.
4. 村松茂, 大野政人, 有本守男, 横浜市大 国際総合科学, 横浜市大 大学院医学研究科, 横浜商大. 運動後の高濃度酸素類似吸引が呼吸数および心拍変動に及ぼす影響; PSYCHOLOGICAL EFFECTS OF HYPEROXIC GAS INHALED AFTER EXERCISE ON RESPIRATORY RATE AND HEART RATE VARIABILITY. 日本生理人類学会誌. 2006, vol. 11, no. 2, p. 75-79.

図4. 参考文献リスト作成 (下ウィンドウが文献リスト)

フォーマットは用意されていないため、入力時に作成しなければならない。

V. 終わりに

RefWorks は画面表示が日本語で、日本語のデータベースからも検索結果を取り込むことができ、便利なソフトであるが、インターネット上で利用するため、レスポンスが遅いことが欠点といえる。しかし、利用者個々にソフトを購入する必要がないのは大きなメリットでもある。文献管理の意識が高まれば利用は増えると予測されるが、前述の通り現段階の統計をみる限り、利用者はまだ少数である。これは、文字コードなども含めて

日本語データの扱いが面倒であることや、学部生が主として利用する当大学の蔵書検索システム KOSMOS II -OPAC の図書データや新聞記事データベースの記事を RefWorks に簡単に取り込めないことなどが一原因とも考えられる。(KOSMOS II -OPAC のデータ取り込みについては、2007年6月現在実現しつつあるが) このような問題も今後解決されることを期待している。

参考文献

- 1) 古関美津子. 文献管理ツールRefWorks. オンライン検索 2005;26(1/2):17-23.